

ファミリーマート班

高橋勇輝 中野智 松田真菜 松村裕紀

1. 合同ゼミの準備に関する感想と反省

有名企業の戦略や歴史を調査しデータをまとめるという作業は興味深いものであり、企業というものを理解する為に非常に良い経験になりました。

また、何が原因で企業間において利益に差が出るのかを企業側の立場になって考え、消費者側の立場になって考えたりする事により、一つの物事を多面的に捉えらる事の重要性を理解できたと思います。

ゼミ合宿では、調べてきた内容をまとめてどのような方向性でその情報を伝えるかを話し合う事ができました。さらに、班のメンバー同士で普段よりもコミュニケーションを取ることが人間関係を円滑にし、その後の作業効率も良くなった。

各班の企業調査において、調べるべき内容を理解しきれていなかった点を反省するべきだと考えます。調査内容が的外れなものだったら、いくら調べてもそれは時間の無駄にしかならないからです。それと、誰もが思い付く視点から情報を探せばかりではあまり意味が無いと思いました。

最後に班内での役割分担をはっきりさせて、作業内容が被らないようにしなければいけないと思いました。

2. 合同ゼミにおける報告内容とそれに対する質疑の概要

私たちのグループはコンビニについて調査してきました。私たち東洋大学は『ファミリーマート』、相手の日本大学さんは『セブンイレブン』についてお互いの企業の優位性の調査内容を発表いたしました。

まず日本大学さんのほうからですが、タイトルは『セブンイレブン・ジャパンの経営分析』です。目次は第1に業績分析、第2に発展プロセス、第3に経営戦略、第4にまとめ、最後に今後の課題・展望という形で発表しました。

業績分析では売上高・経常利益・1店舗あたりの平均日販・国内外店舗数を他社と比較し、セブンイレブン・ジャパンがコンビニ業界第1位であるということを強く印象付けさせました。

次に発展プロセスについてです。セブンイレブン設立当初からフランチャイズシステムを採用しており、それにより加盟社側が出店コストを安くでき、本部側の多店舗展開が可能になり安定した経営を実現することが出来るということでした。また特定の地

域に集中して出店するドミナント方式、共同配送システムを実施、物流コストの削減に成功しているということです。さらに POS システム(販売時点情報管理システム)を他社よりいち早く導入したことも要因といえます。

その他の経営戦略として銀行 ATM の設置 E コマースの導入があります。

今後は品揃えのスピード・顧客に立脚したサービス能力・ブランド力を徹底させていくことが課題であるという締めくくりでした。

次に私たち東洋大学が発表しました。タイトルは『ファミリーマートとセブンイレブン』です。目次は第 1 に有価証券報告書による経営分析、第 2 に現在までの戦略、第 3 に将来性という形式でした。

日本大学さんの調査報告からも分かるようにコンビニ業界のシェアの比較や総収入、利益率などどれをとってもファミリーマートはセブンイレブンより劣っていることがわかりました。

売り上げでは勝ち目がない…そこでファミリーマートがセブンイレブンと差別化を計った点について私たちは調査したことを報告しました。

一番大きな違いといえるのがアジアへの店舗進出という点です。セブンイレブンは主に米国を中心とした国々に進出しています。それに対しファミリーマートは成長著しい中国へ積極的に進出しています。10 年、20 年先を見据えた経営戦略であるといえます。またローソンについて 2 番目に全国出店したことも強みであるといえます。

質疑の概要についてですが、時間の関係上とても短かったです。1 つ目に「これからコンビニ業界はどういったところで“差別化”を計っていこうとしているのか」、2 つ目に、「セブンイレブンはなぜ全国出店しないのか」、3 つ目に「ファミリーマートは将来具体的にどのような戦略を立てているのか」ということです。

3. 合同ゼミに対する感想と反省

今回の東洋大学・拓殖大学・駿河台大学・日本大学4大学合同ゼミ大会の行った感想として、まず言えることは大変貴重な経験が出来たということです。テーマを決め、それに対して班の人と一緒に調査し、他大の方の前でプレゼンテーションをするという貴重な機会を与えられたことに対してとても感謝しています。普段行うことが出来ない体験が出来たことも、4大学お互いの協力があったからこそものだと思います。普段慣れていないプレゼンのための調査も、今後の卒業論文などの調査に繋がる良い経験だと思いました。

反省としましては、「準備不足」これに尽きると思います。プレゼンテーションという作業に慣れていないせいもあり、何をしたら良いか？どうすればうまくいくのか？の試行錯誤の繰り返しで当日ギリギリまで準備をしていました。準備をもっとしていれば、もっとスムーズに作業が進められたかなと感じました。次回このような機会を頂ける時

はこの合同ゼミの経験を生かし、より良いものが出来るように努めたいと考えています。

松村裕紀